



弓削高等学校

<https://ehm-yuge-h.esnet.ed.jp/>


卓球部東予地区ベスト4!

卓球部、新人東予選ベスト4!

10月24、25日に卓球の新人戦東予選が行われ、女子が団体戦ベスト4へ勝ち上がりました。シングルスでも佐伯さんがベスト8、西本さんがベスト16となりました。「練習の成果が発揮できた。県大会はベスト4を目指して頑張りたい」と佐伯さんが話してくれました。バドミントン部の予選も同日で行われ、女子ダブルスで居村・横山ペアがベスト8に勝ち上がり県大会への切符を手に入れました。県大会での活躍を期待しています。



工夫しました!文化祭!

11月1日に文化祭を行いました。今年度は食品バザーの中止や観覧人数の制限など例年との変更がいくつもありませんでしたが、ZOOMでの生配信や教室での黒板アートなど生徒発案の様々な企画が行



なわれました。

各クラスが時間をかけて練習してきた合唱コンクールでは、アオハル賞、ハーモニー賞、パフォーマンス賞が新設され、賞を狙った各学年の合唱で盛り上がりしました。当日の様子は上島町CATVにて放送予定です。



島親募集!

チームで休日に食事等の面倒を見ていただける皆さまを募集します

連絡先 ☎ 77-2021

弓削高校 教頭 渡邊



弓削商船高等専門学校

<https://www.yuge.ac.jp/>


卒業式実施の喜びとともに学び舎を旅立ちます

商船学科卒業式・専攻科修了式

9月29日(火)、令和2年度商船学科卒業式・専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了式を挙行し、卒業生44名及び修了生2名に卒業証書・修了証書を授与されました。

今年度は卒業生・修了生・保護者及び教職員のみ出席とし、座席の間隔を空けるなど新型コロナウイルス感染症対策を行い式典が挙行されました。



恒例の卒業生一同による登壇礼(とうしょうれい)を行い「ごきげんよう!」の掛け声とともに、全員の制帽が美しく宙を舞いました。

卒業生・修了生たちは本校での思い出を胸に、社会という大海原へ出航しました。

チャレンジキャンパス 2020

10月4日(日)、子どもたちに楽しい体験を通じて科学技術の素晴らしさ・楽しさ・夢を伝え、科学に対する興味・関心を持ってもらおうと「チャレンジキャンパス2020」を開催しました。対象は小中学生とその保護者の方で、当日は約70名の方々が参加されました。

航海術を学んでお宝を探すという講座では、コンパスを使い

運動場に隠された宝を探し出しました。



他にもロボットプログラミングの講座では、ドローンを体育館で飛ばす体験ができました。

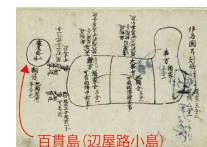
また、電子顕微鏡で普段見ることのないものを見るなど様々な講座があり、修了者には「かがくはかせ号」として修了証と缶バッジが贈られました。

来年度も実施予定ですのでお楽しみに!

かみじま郷土話 4

ひゃっかんじま

百貫島の歴史



弓削島の隣に描かれている百貫島(東寺百合文書 webの画像を元に作成)

百貫島は、弓削島の北東にある島です。弓削島の久司浦地区や大谷地区から島を間近に眺めることができます。広い海にぼつりと浮かぶこの小島を見ていると、どこかのんびりした気持ちになります。

中世の百貫島は、「辺屋路小島」や「辺屋路島」といった名で東寺百合文書に現れます。弓削島が描かれた絵図には、百貫島も網羅の文字とともに描かれています(京都府立京都学・歴史館 東寺百合文書 WEB「伊予国弓削島庄地頭領家相分差図」)。辺屋路(小)島が、現在の百貫島という名前にいつ変化したのかはわかりませんが、『弓削町誌』や『越智郡むかしむかし』などの書籍に、名前にまつわる伝説が紹介されています。

百貫島の頂上には灯台が建てられています。明治26年に国が百貫島を購入して建設を開始し、翌27年に完成しました。昭和34年までは有人灯台であった

ため、島に最も近い弓削島の久司浦地区の人々が灯台に関わる仕事をするのが多かったようです。昭和20年代に灯台守をされていた方の回顧録によれば、当時、3家族が百貫島の宿舎で暮らしていたそうです。島での生活は、上弓削に買い物に行くのに船で片道2時間を要したこと、タンクに雨水を溜めて飲料水と生活用水を賄っていたこと、シケや台風が続く季節は、島から一步も外に出られなかったことなど、美しい小島の景色からは想像できないほど過酷なものであったようです。



百貫島上空から

島おこし協力隊活動報告

便利すぎないことの良さを感じています

こんにちは。空気が一層澄み夜空の星も一段と見えるようになってきました。寒いのはそれほど好きではなかったのですが、四季折々に自然の景観や空模様が変化しどの季節も美しく、ここでは外に出て自然を感じたくなります。

さて、協力隊の活動はというと、イベントごとは少なかったもののこの半年間で上島町の現状を知り考える機会や、活動とプライベートを通して地域内外のたくさんの方々と交流できる機会をいただきました。現在は上島町役場で移住相談窓口として相談を受けたり、希望があれば島の案内や、島で活動している方々・元移住者の方々のところへ一緒に行きお話を伺ったり

という形で移住促進支援をスタートしています。地域の方々には、親身になって島での暮らしなど、それぞれの悩みに応じてお話をさせていただきます。このような光景は町外の方が移住を決める大きな要因になっていると感じながら、私自身勉強させてもらっています。

現在、上島町に魅力を感じ移住したいという相談が増えてきています。私自身町外の方々が島に遊びにいききたいという「何もないよ!」と言っていたのですが、モノや情報が溢れていない便利すぎない「ここでの心地よさ」を以前よりも感じています。そのような島の暮らしの実際や、島で活動する人々の魅力をさらに発信していきたい

動画づくりにも取り組んでいます。町にあるたくさんの素晴らしい素材がよく循環していくよう課題を見つめる必要性も感じています。

今、空き家実態調査継続中ですが、もう使えないのではと諦めていたり、現在長く家を空けているが傷まないようにしたいなどの声がありましたら是非一度ご相談ください。



島おこし協力隊
田邊 真希